

東京公演

京都公演

萩大名 大名 三宅 三宅 右矩
 はぎだいみょう 太郎冠者 茶屋 高澤 祐介
察化 太郎冠者 島田 洋海
 さっか 主 鈴木 実
 すっぱ 増田 浩紀

磁石 人商人 奥津 健太郎
 じしやく 見附国府の者 野口 隆行
 宿の亭主 野村 又三郎

禰宜山伏 山伏 大藏 基誠
 ねぎやまぶし 禰宜 大藏 教義
 茶屋 大藏 千太郎
 大黒 善竹 富太郎

終演予定 午後九時頃

都見物をしたいという大名に、太郎冠者は萩の花咲く庭園を勧めますが、亭主から和歌を詠まされたと聞いて浮かぬ顔。太郎冠者は大名に入れ知恵をして何とか和歌を詠ませます…。

都の伯父に連歌の宗匠を頼もうと、主人は太郎冠者によびにいかせす。伯父を知らない太郎冠者は「みごひの察化」というすっぱを連れ帰ってしまいます。

在所で喧嘩をして地元に住みづらくなつた遠江国見附国府(とおとうみのくにみつけのこう)の者が国を出奔し、近江国まで上り大津松本(おほつ)市で見物をしてると、人商人が言葉巧みに近づいてきて…。

横柄で乱暴な態度の山伏が、とある茶屋で禰宜(神職)に文句をつける。見兼ねた茶屋の亭主は、大黒の像を持ち出し、二人に呪力の競い合いを勧める。山伏の行力と、禰宜の祝詞…はたして大黒の像はどのような審判をくだすのか…。

ご挨拶
 このたび「立合狂言会」と銘打ち、狂言の流派や家の垣根を超えて、次代を担う若手の狂言師が集い研鑽を積む公演を企画いたしました。それぞれの家の古典狂言を演じ合うことで、より一層の芸の向上はもちろんですが、今後の狂言界の交流や発展の試金石になればと期待しております。

また観客の皆様には、出演者が懸命に狂言に取り組む姿をご覧いただき、狂言の新しい息吹を感じていただければと思います。毎年継続して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

世話役 野村万蔵 茂山千三郎

昆布売 大名 善竹 富太郎
 こぶうり 昆布売 善竹 大二郎

棒縛 太郎冠者 鹿島 俊裕
 ぼうしばり 次郎冠者 今枝 郁雄
 主人 井上 松次郎

千鳥 太郎冠者 茂山 良暢
 ちどり 主 山本 善之
 酒屋 新島 健人

蝸牛 山伏 野村 太一郎
 かぎゅう 主 泉 慎也
 太郎冠者 吉住 講

終演予定 午後九時頃

大名が都へ上る途中、無理やり太刀を持たせ供の者にされた昆布売はその太刀を使って逆襲し、さらに平家節・小唄節・踊り節で昆布を大名に売らせませす。さて大名はうまく昆布を売れるのでしょうか…。

酒好きな太郎冠者・次郎冠者二人の召使いは主人が留守になるたびに酒蔵へ忍び込んで盗み酒をする始末。この事を知りつつ今日も外出する予定の主人は、一計を案じてまず次郎冠者を呼び出し、最近棒の手II護身術の稽古をしている太郎冠者にその型をさせ、隙を見て縄で括りつけようと提案します…。

主人に酒をツケて貰ってこいと言いつけられた太郎冠者、しかしその酒屋には既にだぶとツケがたまっているのももえるわけはありません。なんとか面白おかしく言って酒を取ってこよう太郎冠者は酒屋の亭主をはやし立て隙を伺います。さて無事に酒をもらうことが出来るのでしょうか…。

主人の命で蝸牛を探しに来た太郎冠者。しかし蝸牛(かたつむり)の事を見ることがないのでどんなものかを知りません。藪の中にいると聞いたので分け入って探している…。

東京公演 出演者

京都公演 出演者



※都合により、配役が変更になる場合があります。場内での、撮影、録音、録画および携帯電話のご使用は固くお断りいたします。